

2. 事業の目的と概要 ※ 英文案件概要は、別紙 1 に記載	
(1) 上位目標	イラク共和国北部における保健医療サービスの安定的供給およびアクセス改善
(2) 事業の必要性 (背景)	(ア) イラク共和国北部クルド自治区は、2013 年以降の経済危機に加え、シリア難民 233,117 人 (UNHCR : 2017 年 5 月 31 日現在、イラク全土の 97%) および国内避難民 875,436 人 (IOM-DTM : 2017 年 6 月 15 日現在、ニナワ県を含めると 1,537,746 人) が避難生活を送っており、受け入れホストコミュニティも疲弊し、医療サービスの供給が低下している。高まる需要に対応できる、医療・保健施設のインフラ整備や設備の更新が必要となっており、クルド自治政府計画省の 2020 年ビジョンにおいても、専門特化した医療機関を含む保健システムのインフラ強化が戦略的方向性として示されている。 (イ) 「持続可能な開発目標 (SDGs)」の「目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」のうち、「3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) を達成する」に沿った事業である。 (ウ) 長期化する紛争で経済的・社会的負担を強いられているクルド自治地域の状況を踏まえた、本事業における保健インフラおよび設備支援は、外務省が掲げる対イラク共和国 国別援助方針の 3. 重点分野 (3) 生活基盤の整備に明記されている、保健医療の向上を含む市民生活に直結する分野での施設整備に合致するとともに、平成 29 年度開発協力重点方針の重点①難民・国内避難民・ホストコミュニティ支援等による、社会の安定化と平和の持続に資する事業である。 (エ) クルド自治政府保健省が各県保健局管轄のもと設置している中央血液センター (Central Blood Bank : 以下、CBB) は、県内の病院へ輸血用血液の供給を行う唯一の機関で、その供給体制の強化と効率化により、多くの病院と患者に裨益する。ドホーク県では隣県ニナワ県を含めた 16 病院が供給先となっており、同県保健局からの支援要請を受け、本事業では改築および設備供与を行う。2016 年の実績では、生産された血液製剤数は 32,053、血液収集量における親族によらない無償ドナーからの献血 (以下、献血) の割合が 50-60%であった。本事業により、これら数値の改善を見込んでいる。 スレイマニヤ県保健局からは、同市にあるヒワがん病院への支援を要請された。市内に限らず他県からも患者が通っており、2007 年開院以降の累計で 38,000 人が裨益しており、毎日約 400 人の患者が受診・通院・治療・相談を受けている。うち 35%がシリア難民および国内避難民である。がん患者や血液疾患患者のための地域における主要病院であるが、障害や筋萎縮を予防し体力を維持するための運動療法を行うリハビリテーション施設および設備がなく、総合的な支援が行える体制構築が必要となっている。同病院は、治療面においてイラク北部でも進んでいる医療機関であるが、病状の予防・維持・回復に大きくかわるリハビリテーションを含めた包括的なサービス提供が行えることは、裨益効果が大きい。患者がリハビリを行うためには別途スポーツセンター等に通うほかないのが現状であり、専門職種・アクセス・同じ病気を抱える者どう

	しの交流の場としての効果が期待できることから、同病院にセンターを建設・設備供与する意義は大きい。病院では土地および専門の人材をすでに確保しており、当団体による一方的な支援としてのセンターの建設・設備供与ではなく、既存資源の有効活用および持続性の担保があること、また、他病院への指導や施設見学も今後更に展開する意欲があることも、選定の判断材料となった。 ハラブジャ県ハラブジャ市にある母子病院は、2010 年 10 月に開院し、2 階建て 50 床を備えた産婦人科と小児科の総合診療を行う地域唯一の病院として高く評価され機能しているが、建物の損傷や劣化により、とりわけ汚水の漏えいが問題となっており、入院および外来患者の安全と衛生環境に懸念が生じている。また、貯水槽の水は飲料に適しておらず、使用済みの白衣等を処分する焼却炉は燃焼装置と空気洗浄フィルターが破損し、十分に稼働できていない。同県保健局からの支援要請を受け、本事業では、病院建物および設備の修繕や交換を行い、衛生および安全性の向上を図り、引き続き地域の主要病院として機能できるようにする。 上記 3 事業については、今年度事業として実施する意義が高いと判断している。各県保健局による支援要請リストの優先順位が高いという点も重要であるが、当団体スタッフによる他分野にわたるニーズ調査を元にリストアップした支援候補リストにおいても、裨益効果の大きさ、他地域・他関連機関等への波及効果、長期的視点からみた地域の主要アクターとしての機能性という点から、保健分野での支援ニーズが高いと認識している。当団体では、過去に同様の保健インフラ事業や巡回診療を実施してきた実績があり、保健医療分野の支援として近年では他事業でシリア難民および国内避難民キャンプにおける学校健診活動を 3 県で実施している。ある程度の規模をもって、当団体がイラク北部に設置する 3 事務所が管轄しつつ事業展開を行う方針のもとに、3 施設については昨秋より該当クラスターリード・会議での調整も行っていることから、キャンプ外のシリア難民および国内避難民を含めたクルド自治区のホストコミュニティが裨益する上記 3 事業を展開していく。
(3) 事業内容	(ア) ドホーク中央血液センターの改築および機材供与 2004 年に血液検査センターから分離独立した後、設備の更新が行われておらず、WHO 推奨の施設基準を満たしていないことから、洗浄・換気・室内光環境の懸案に加え、献血室や検査・管理室に十分なスペースが確保されていない。また、保冷室が足りず検査用試薬が管理できないことから、他の保健センターの保冷库を借りており負担をかけている。そのため、安全・衛生面を考慮した改築・拡張工事を行い、新たに保冷室を設置する。工事内容は、全階ビニール床への張替、2 階天井修理、水回りおよび電気系統の整備、パーテーションの交換設置、亀裂のある壁の修繕、献血者用の古いロビーチェアの交換などを予定している。 また、血液内科・成分献血室・品質管理室では情報管理を行うスタッフがいるものの、センターのイントラネットに接続されておらず、他部署との統一した情報管理および共有を行うため、デスクトップパソコン 3 台を供与する。また、成分献血のドナーは少なくとも数時間の滞在を余儀なくされることから、同室に献血者用のテレビ 1 台も供与する。これら改築・供与により、血液供給先の 16 病院およびその患者が裨益する。 (イ) スレイマニヤ市ヒワがん病院：リハビリテーションセンター（以下、

	RC) 新設と機器供与 がん患者および血液疾患患者が継続的に運動療法を行えるように、病院の敷地内に RC を新設し、必要な機器を供与する。身体の機能回復だけでなく、患者どうしが交流し支えあえる場としても機能することを目的としている。主な供与機器・用品は、マッサージ台、トレッドミル（歩行・走行器具）、バランス保持器具、壁面用助木、昇降練習用階段、抵抗ゴムバンド、角度計などである。裨益者は少なくとも、血友病患者、乳がん患者、抗がん剤治療患者など一日 50 人・年間延べ 12,000 人（20 日/月×12 ヶ月）で、RC 新設後から事業期間終了までの 6 ヶ月で 6,000 人を見込んでいる。 (ウ) ハラブジャ母子病院の修繕 産婦人科と小児科の総合診療病院でハラブジャ市や周辺地域から患者が通う、ハラブジャ母子病院の衛生環境を改善するため、汚水が漏えいしている水道管や水回り、天井や床の交換や修理、壁の修繕と塗装、破損したドアや外灯、焼却炉の燃焼装置および空気洗浄フィルターの修理、患者室等へのエアコンの設置と電気系統の整備、貯水槽の水処理装置の設置等を行う。エアコンは複数の部屋が連動した電気系統であるために、全室使用すると電力消費がかさむため、故障したものが放置・撤去されているが、酷暑と厳冬で新生児室や産前・産後の患者が滞在する病室、薬品管理を行う薬局には必要である。そのため電気系統の整備と共にエアコンの設置を行う。また、病院用の高架水槽（貯水槽）があるが、飲料に適していないため、水処理装置の設置を行うほか、現在お湯が使えないことから、ボイラー用の加熱装置も供与する。同病院の 2015 年の分娩件数は 2,345 件で、引き続き多くの患者が衛生的かつ安全な環境で診療が受けられるようにする。
	直接裨益者数 ・ ドホーク県およびニナワ県の 16 病院 ・ スレイマニヤ市がん病院で運動療法を受けた患者 3,000 人（年間 12,000 人を見込んでおり、業者選定等を含め建設に約 7 ヶ月を要することから、完成後の 2018 年 6～8 月の 3 ヶ月の裨益者数： $12,000 \div 12 \text{ ヶ月} \times 3 \text{ ヶ月} = 3,000 \text{ 人}$） ・ ハラブジャ母子病院の診療患者 16,258 人（2015 年実績に基づく） 間接裨益者数： ・ ドホーク県の住民 700,000 人（人口の約 5 割。患者・家族など想定） ・ スレイマニヤ市がん病院の患者家族 18,000 人（3,000 人×6 人） ・ ハラブジャ市および周辺地域住民 9,000 人（シリア難民 400 人、国内避難民 2,500 人、ホストコミュニティ 6,100 人）
(4) 持続発展性	改築・建設・修繕・設備供与を行った医療保健施設は、完了後、ドホーク県・スレイマニヤ県・ハラブジャ県保健局に引き渡しを行い、各局の責任のもと、クルド自治政府保健省から各局に割り当てられる予算にて維持管理が行われる。なお、保健局への引き渡し後も事業により約 3～6 ヶ月間はモニタリング期間を設け、弊団体エンジニアやフィールド・モニターが稼働状況を確認し、工事実施箇所や供与設備に不具合が生じていると判明した場合には、業者の責任で修繕することとしている。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	[期待される成果] (ア) ドホーク中央血液センターの改築および機材供与 ・ 保冷室の設置や献血室の拡張を含むセンターの改築工事により、血液確保・保存・供給の効率性が上がり、献血量および病院への血液供給

	量が増加する。 (イ) スレイマニヤ市ヒワがん病院：新設と機器・設備供与 ・ RC の新設およびリハビリ機器・用品の提供を行い、がんや血液疾患患者が運動療法を受け、身体状況の維持・改善ができる。 (ウ) ハラブジャ母子病院の修繕 ・ 母子病院の建物および設備の修繕・交換を行うことで、利用者が安心かつ衛生的な環境で診療を受けることができる。 [成果を測る指標] (ア) 献血量の増加 25%、血液供給量の増加 10% (2016 年実績はそれぞれ 18,043 袋、28,072 袋) (イ) 運動療法を受けたがん・血液疾患患者数 延べ 3,000 人 (ウ) 診療患者数の増加：外来 20%、入院 15%、分娩数の増加：15% (2016 年実績はそれぞれ 16,444 人、6,083 人、1,509 人) [指標の確認方法] (ア) センターからの聞き取り、献血・血液収集・血液供給の記録 (イ) 病院からの聞き取り、リハビリテーション受診・患者記録 (ウ) 病院からの聞き取り、外来・入院患者数・分娩数の記録
--	---